

壱・新発見吉田初三郎原画 木曽川流域発電鳥瞰図

しろはく古地図と城の博物館富原文庫 代表 富原 道晴

吉田初三郎という名を御存じであろうか。大正広重といわれた鳥瞰図作家である。1884年（明治17年）生まれ、1955年（昭和30年）没、大正から昭和にかけて、全国の市街地鳥瞰図や名勝鳥瞰図を描いた。大正広重といわれるほどのモテモテぶりであるが、広重作品には似ていない。むしろ、幕末明治に活躍し、今、空飛ぶ絵師と呼ばれている玉蘭斎貞秀の再来といえようか。人間には昔から空を飛びたいという願望がある。近代航空機の開発で我々はいつでも1万メートル上空から地球の一部を観察できる。東京ディズニーランドの上空から花火を見て、真上から見ても真ん丸なのに感激した。一部の乗り物は今や空中浮遊を実現してくれる。地図も航空写真から作成される。宇宙旅行も視野に入る、宇宙戦艦ヤマトは夢と希望を与えてくれる。視点を変えると物の見方は変わる。蟻、猫、馬、麒麟、鳥、飛行機、人工衛星、そしてスピードにても、歩き、自転車、車、列車、新幹線、飛行機、同じところを見ても違う印象を与えてくれる。自分の住んでいる街を空から見、その夢を実現してくれたのが貞秀であり、吉田初三郎である。

初三郎の作品は1,600種以上で、2千万部以上印刷されたといわれるが、いまだにその総数は未知数である。全国の古書店や古書即売会場で印刷折帳の横長のパノラマ絵図、絵葉書、まれに大型ポスターを見ることができる。その細密さや山や海の色鮮やかさは人々を魅了してやまない。今や鳥瞰図1枚1万円、絵葉書1枚千円と高額である。細密すぎて、展示しても見えないのが欠点であるが、初三郎展は各地で頻繁に開催される。当時の交通状況、建物、博覧会等事業、寺社等名勝が細密に読み取れ、文字でなく、絵柄として時代を読み取れる。中心を拡大し、遠景を極端に縮小し、日本の殆どの鳥瞰図に小さく富士山を入れる等、日本人心を揺さぶる。航空撮影普及以前の戦



富士山

後、改変される前の貴重な記録が鳥瞰図に刻まれている。

ところで、このように普及した初三郎作品にも原画がある。初三郎研究家で類友、藤本一美氏は現存数119点と把握されている。現所蔵先不明のものもあるが、殆ど発注先の地方自治体や鉄道会社に所蔵され、公開されることは少ない。まさに幻の初三郎鳥瞰図といえる。原画なので大型で、多くは絹本である。公開されない理由は痛みや色焼けが生じるためであり、図録で紹介される原画の半数は退色し、原画の美しさが欠落している。したがって、保存がよいものは限られるほどである。今回発見の「木曽川流域発電鳥瞰図 初三郎画」と書かれた絹本原画は軸装で保存され、色鮮やかな痛みのない見事なものである。大きさは本紙で39×153cm。御嶽山の麓、木曽福島から犬山、名古屋まで、三浦貯水池ダム、御嶽発電所、寝覚発電所、寝覚め床、桃山発電所、須原発電所、相ノ原発電所、大桑発電所、読書発電所、賤母発電所、落合発電所、恵那山、恵那峡、大井発電所、笠置発電所、二股発電所、丸山発電所、兼山発電所、日本ラインを描く、美しい壮大な大パノラマ絵巻、遠景に大阪、東京、富士山を描く、まずは写真を見ていただきたい。なお、この原画は新発見であるばかりでなく、印刷図すら発見されていない幻の絵巻である。当時の人々が描いた空飛ぶ夢、それが、ここにある。



木曽川流域発電鳥瞰図



絹本原画